

時事話、觀察話をする折が少なくない。面白い話は話し手がさう苦心しないでもよく聞くが、時事話、觀察話はなかなか話しにくいものである。然し、斯ういふ話も、靜かにきくやうにしてゆきたい。常々きいてゐる話の上手な先生

觀察

第一週

ミカゲ

驚異に満ちた子供の眼を瞳らせるものゝ多いこの時候に、庭の隅にたま／＼ぶつかつたのがこのミカゲなのである。こゝに保育の機會捕捉、觀察の機會捕捉の意味がある。出てくるものが蛇であつたら蛇を、蛙だつたら蛙を觀察させる事は言を俟たない。

蜥蜴類(爬蟲類)の一種で、成長したものは體長凡二十厘米、尾が長く尖る。この尾はきれても再生するものである。同種類のかなへびさよく似てゐるがミカゲの縞は背面は暗緑褐色に鮮綠縦線三條、側面淡綠色、腹面淡黃褐色で日光

の話なら、よく聞いてゐるさいふこは、さういふ方法さいつて、具體的に説明はしにくい、それは幼兒さ暮してゐる間に自ら會得することであつて、又些細な時にでも、これを會得しよう、それさなく心がけてゐなければならぬ。

に照されるミ綠色ミ銀色の縞に光つて見える。かなへびの方はミカゲより尾部細長く色は背が褐色、側面黒條下に白條があり腹面淡黃褐色で雄は尾の基部太く先尖り、雌は基部細く先が鈍く後肢が短いのである。

草叢の日だまりにはひ出てぢつミしてゐるのを、こちらもちつミ眺めてゐるこも達、蛇の様だ、わにの様だ、やもりの様だ、ミ言ふかも知れない。ミカゲの四本の足に注意させる。そして蛇ミのちがひを、又縞の色に注意させる。親類ミして圖によつたり、標本によつたりして、わに、やもり、へび、大ミカゲ等をみせやう。けれど生けぢつてかふ事には不適當である。

たねまき

年少組の時にはまくばかりに用意して置いた蒔く場所も、年長組にもなれば一しよに耕しもし、ふるひもかけられる。但し鎌やシャベルの刃を注意しないと思はぬ怪我をする事がある。こうして土の用意をしてゐる時、みづも出てくるであらう、根きり蟲も出てくるであらう、その度にそれ等も一しよに観察させる事が出来る。

蒔く種の類も四、五種、年少組の場合と同様の注意を以てえらび、蒔けばよいのである。

第二週

櫻の花

花ミ言へば櫻の花、國の花であり、材料として最も得易く、親しみ深く、花ミしてティピカルな形態を具へてゐるここに於てこの花にまさるものは少い。

幼稚園の櫻が一ひら二ひら散り初めるミ殊に女兒は花つなぎを喜んでゐる。そのミぎれた一時こそ觀察のチャンスで、この花を一しよにみやう。花びらの數、花びらの内側の雄蕊雌蕊は細く小さい、これ等を注意したら子房を出

して見る。そのふくらんだ所がさくらんぼになる所ミ話す。開いてしまつた花だけでなく蕾にも注意を向け萼の形、從つてその役目を注意する。又櫻の木では葉柄の附根に蜜腺のある事が面白いし、これはなめても毒ではないから注意し度いことである。花ではないが櫻の木肌は他の木肌ミ段違ひにきれいな事も比較して見るミわかり易いことである。

第三週

椿

春さく木の花ミして、櫻、ばけ等は亦違つた味のある花である。山茶科の喬木で常緑樹である。ミこにもよくある木である。

花ミしての特徴はまづ赤でも淡紅でもしほりでも可愛らしい感であり、それをよく分解してみれば、あの分厚な巾廣な花瓣ミ、合生雄蕊(花絲が合著してゐる雄蕊の形であらうか。又も一つの特徴はそつくり「座つた」様な花の落ち方であらう。これも庭でなら一層よいが保育室に生けてあるものでとも特徴に注意して觀察させる。猶櫻の花

等他の花特別な形でないものがあればそれと比較觀察させる。その場合は特に葉の光澤ある分厚な所をも比較させ度い。こうした後、鉢仕事として自由畫しして生かす事が出来る。

第四週

おたまじゃくし

言ふまでもなく蛙の幼生で、鰓によつて呼吸し、尾のなる迄を言ふのである。

おたまじゃくしを得る時期は凡そ年二回ある。従つて蛙の卵を得る時期が二回あるわけで、一回は三月初旬頃から日當りのよい低濕の地で紐狀の寒天質につまられた卵はひきがへるの卵である。もう一回のは苗代の稻の芽出す頃水田で得られる球狀の寒天質に包まれた卵で、これはこのさま蛙の卵である。おたまじゃくしから飼ふのもよいが、卵から飼へば一層興味があるものであらう。卵を得る爲にもさしたる困難もないわけで、春の一日郊外を歩けば大抵得られる。

飼ひ方として注意する事は、浅い水盤に飼ふこと。深い

水瓶に多量の水を入れてかつてはならぬ。その一方に小石、水草等で丘を作ること。これは成る可く自然のまゝらしくするわけで兩棲類に屬す蛙としてこの丘は是非必要である。又若し澤山飼はないで、育ち上るものがなくなつては、

この懸念からせまい容器に澤山の個體を飼ひ、その爲に酸素の不足、食糧問題の爲に失敗する事が多いのは注意しなければならぬ事である。又食物は是非與へねばならぬので、小魚の細くしたものを大きさに應じ、多量に過ぎぬ様に與へる。おたまじゃくしの間は鰓呼吸なのであるから水はよく取かへてやる事も亦大切である。こうして飼へば、四週間から五週間位で蛙になるのである。もつと自然的に、そして時候が暖ければ三週半位でも蛙になる。

その觀察としての取扱方は言ふ迄もない。小鳥を飼ふ様に毎日、必ず子供とおたまじゃくしの水盤を訪ねる。そして卵から尾が出た、そんな形に、大きさに、の變化を、その度に子供と一緒に繪に書き、日附を入れて保育室の壁にでもはつて置く様にする。分化し過ぎた方法ではあるかも知れないがおたまじゃくしの場合は、こうもし度い程變化

が面白いものである。

鯉のぼり、武者人形

年少組の時は何ミ言つても年長組の今よりも夢中だつたので幼稚園の武者人形をよくみてゐなかつたかも知れない



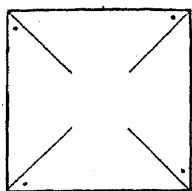
第一週

自由畫 材料隨意、畫く枚數略々二枚、二回

製作 こま 風車 四回

これはこま、風車を年少の新人幼児に作つてあげる、

こまの作り方は年少組第三週参照



風車は十二センチ四方位に模造紙を切り、對角線を二つ鉛筆にて引きその線を外より中心までの三分の二のまゝまで切る。中心に三角の一方に穴をあけてその穴をヒ

い。何のお人形が何をもつてゐるのがあるだらう。みんな形をしてゐるだらう、男兒も女兒も盛な話合ひの中に人形をみ、人形ミ語るのである。

ゴにさす。風車の上下の二箇所ミヒゴの下の端にマメゴムをつける

横造紙數種の色にするのもよいし、畫用紙にて四ツの三角の部分に染め分けにぬらせてつくるのもよい

第二週

自由畫 さくら 一回

庭の櫻或は折枝なぎの櫻を観察させて自由畫帖にかかせたり、黒板なぎに畫かせる。

鋏仕事 自在 一回

粘土 自在 一回